

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月13日実施)	総合評価 (3月13日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な進路選択に対応できる教育課程の工夫を重ね、幅広い生徒の学習希望に応えられるように学習機会を提供する。</li> <li>思考力・判断力・表現力等の能力向上につながる授業の研究を進める。</li> <li>学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的な行動の促進を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクティブ・ラーニングを取り入れた授業など、生徒にとって魅力のある授業の進め方を研究する。</li> <li>学校行事や生徒会活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のニーズを的確に捉えるとともに、進学等に必要で確かな学力を身につけさせるための授業研究を行う。</li> <li>教科会の適切な設定を行い、情報共有を行う。</li> <li>生徒会本部や委員会が主体的に、運動会や岸高祭、球技大会を運営できるよう、サポート体制を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による授業評価。</li> <li>各行事の生徒アンケート結果。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1回の生徒による授業評価での全教科の合計では、すべての項目で「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が80%を超えている。</li> <li>各教科、教科会等で「生徒にとって魅力的で、生徒が主体的に取り組むための授業」という校内統一テーマを設け、教材研究し、代表者が研究授業を実施した。教員は自教科、他教科を参観し意見を交換した。研究授業では、思考力・判断力・表現力の向上につながるよう工夫が成された授業が行われた。</li> <li>運動会では新たに全体の結団式を行うことで、団全体の士気が高められた。また全校の約半分の生徒が応援団に入り、自主的かつ積極的に取り組んだため、生徒の満足度が高い。</li> <li>岸高祭、球技大会でも主体的な活動ができるよう支援した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科による評価のばらつきが見られるため、評価が低い教科の授業改善を進める。</li> <li>今後、この実践で得られた成果を多くの教員で今後、共有することをより一層進めていく。</li> <li>運動会に比べ、岸高祭や球技大会の実行委員の取り組みがまだ十分ではないと思われる。生徒会本部だけでなく、多くの生徒の自主的取り組みを促したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケート等を見ると、学校全体の取り組みとして、今年度、統一テーマ「生徒にとって魅力的で、生徒が主体的に取り組むための授業」を掲げ、ベクトルを合わせて授業改善に取り組んでいる成果が出ているものと思われる。今後もアンケート結果に影響されることなく、学校としてぶれない方針をもって生徒の主体性を伸ばし学力の向上に努めて欲しい。</li> <li>これからの社会に求められる学力はどういう学力なのか、全教職員が統一見解の下に、高校3年間でどういう力を身につけさせたいのか、検証を続けることが重要と感じる。</li> <li>昨年度に引き続き、今年度も外部より講師を招いてアクティブラーニングの研修会を実施している。研修の雰囲気もとてもよく、個々の教師が自分の授業改善に意欲的に取り組もうとしている様子が見られる。主体的・対話的で深い学びについて、授業のスタイルのみにとらわれることなく、あくまでも生徒が主体的に学ぶ授業の実践に向けて、今後も研鑽に取り組んでほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による授業評価アンケートの結果の低い科目を中心に、引き続き授業改善を推進する。</li> <li>生徒に身に付けさせたい力について、教員間で共通認識を持てるように、議論していく。</li> <li>学校行事における生徒の自主的な運営を、さらに押し進めていく。</li> <li>運動会において、結団式を行い、生徒の自主性積極性が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価アンケートの結果の低い科目を中心に、引き続き授業改善を推進する。</li> <li>生徒に身に付けさせたい力について、教員間で共通認識を持てるように、議論していく。</li> <li>学校行事における生徒の自主的な運営を、さらに押し進めていく。</li> </ul>
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルールやマナーを意識した学校生活を送れるよう支援するとともに、教育相談体制の充実をはかる。</li> <li>部活動の活性化を通して、責任感や連帯感の涵養を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立と教育相談体制の強化を図る。</li> <li>部活動の入部率の上昇を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻・頭髪・服装に対する日常的な指導に加え、携帯電話教室・自転車教室・薬物乱用防止教室などを実施していく。</li> <li>各学年に教育相談担当を置き、教育相談に対応していく。</li> <li>仮入部期間のスタンプラリーや図書室との連携による取り組みを新たに実施することで、部活動への入部の促進に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻・頭髪などに関する指導数</li> <li>教育相談等の支援件数。</li> <li>部活動入部率、県のアンケート結果。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻者は2学期以降増加し、頭髪指導を受ける生徒も減少はしなかった。</li> <li>教育相談が必要な生徒に対して、適宜対応できた。</li> <li>スタンプラリーや図書室と連携した取り組み、生徒の良く通る掲示板に全部活のポスターの掲示等実施したが、入部率は約70%で変化がなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の意識を変える指導を引き続き行うとともに、家庭との連絡も密に取るようにしていく。</li> <li>より一層、生徒に寄り添った教育相談を実施していく。</li> <li>取り組みに成果が現れてはいないが、部活動を3年間継続した者の卒業時の満足度が高いので、引き続き部活動勧誘の取り組みを継続したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の取り組みを改めて考えると、とても大事なことだと気付きました。保護者も学校任せにするのではなく、家庭でも同じように良い方向に導くようにすると、より良くなると思います。</li> <li>入部率に変化はないものの、毎年様々な企画を立て、努力が感じられる。来年度に期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談活動を充実させ、生徒に寄り添った相談活動を行った。</li> <li>遅刻指導、頭髪指導については、成果を上げられなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導については、継続して粘り強く、指導を行う。</li> <li>部活加入率アップのために、次年度もさまざまな方策を講じていく。</li> </ul>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月13日実施)	総合評価(3月13日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己理解を深め、進路意識を向上させて、生徒一人ひとりが自らの進路希望を実現できる進路指導の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路意識の向上と進路決定のための学力向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年の発達段階に応じた進路オリエンテーション、進路説明会などを実施する。</li> <li>補習や復習、模擬面接、論文作成の指導、進路相談等、個人指導を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中堅以上の大学への現役合格者数。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年次6回、2年次4回、1年次3回の進路関係説明会等を実施。</li> <li>3回で計96名の模擬面接を実施。</li> <li>2年生の自己PR文作成講演、3年生で産業能率大学との連携した講習会を開催</li> <li>小論文、面接、提出書類等の個別指導は随時実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年次6回、2年次4回、1年次3回の進路関係説明会等を実施。</li> <li>3回で計96名の模擬面接を実施。</li> <li>2年生の自己PR文作成講演、3年生で産業能率大学との連携した講習会を開催</li> <li>小論文、面接、提出書類等の個別指導は随時実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は、サポートティーチャーを含めて進路指導体制で実績をあげているが、次年度へ向けて組織編制を充実させてほしい。</li> <li>保護者や生徒が行うべき大学入試申込み等を先生に任せる傾向があり、教員の業務の負担になっている。この点の指導が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路説明会、講演会、講習会等を通じて、生徒に対して十分な情報提供を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポートティーチャーのいない中、業務アシスタントを有効に活用し、今まで通り、面接、小論文等の個別指導を個別に行う。</li> <li>生徒の進路意識を高め、教員の業務負担を軽減する。</li> </ul>
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>「篠原・岸根地区地域交流教育推進会」の教育力を活かし、異校種・異年齢との交流を通じて、自己有用感や社会性の育成をはかる。</li> <li>コミュニティ・スクールとして、地域に開かれ地域と共にある学校づくりに取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園での実習、篠原西小学校と地域音楽交流会、すこやか祭り、地域清掃、校外ボランティア活動等において、地域の方々やPTAと連携し、生徒が充実した活動を行えるよう支援する。</li> <li>学校運営協議会制度に基づき、地域協働を推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園実習、小学校との交流活動について、事前学習・事後振り返りを含め、きめ細かな指導を行う。</li> <li>すこやか祭り・地域音楽交流会について、「すこやかサークル」の活動にわり、充実した協働活動を行えるよう生徒を指導する。</li> <li>発足から2年めとなる「地域交流委員会」の、より活発な活動を支援する。</li> <li>学校運営協議会の意見やアドバイスを参考に、生徒にとってよい良い学校づくりをめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>魅力と特色ある県立高校づくりについでアンケート。</li> <li>クラブ交流についての生徒へのアンケート。</li> <li>すこやかサークル定例会における、活動のまとめ。</li> <li>学校評価部会による評価。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園実習、小学校とのクラブ交流・短歌交流を、ほぼ円滑に運営できた。</li> <li>すこやか祭りでは部活動生徒や有志・地域連携委員・PTAとも協力して地域の方々との協働活動を行った。</li> <li>地域の祭りやボランティア活動、小学校の防災キャンプ・運動会への部活動生徒や有志、委員の参加を促した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園実習の決まりごとについて、事前指導をより細かく行う。</li> <li>クラブ交流・短歌交流について西小の先生方とのいっそうの協力体制を構築する。</li> <li>「地域連携委員」の生徒たち活動がさらに充実したものとなるよう、早め早めの活動呼びかけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携の基礎が出来上がっている岸根高校において、いかに生徒にその効果が表れるかが課題であった。今年度、職員間の意識の中に、振り返りに対する修正や取り組み等が見られた。また、次年度にさらに繋げていこうとする意識、情報を共有しようとする意志が感じ取れた。若い職員が多く業務がある中、前向きに捉えている点も良かった。</li> <li>昨年度設置した地域連携委員の活動が積極的に行われているとすこやか祭りを通して感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育園実習、小学校とのクラブ交流・短歌交流、すこやか祭り等、地域との協働活動は、例年、円滑に行われている。</li> <li>地域連携活動が生徒に、どのように良い影響を与えているか、検証方法が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携委員の活動状況、生徒の自主的な参加状況を検証し、各地域連携行事の生徒への浸透状況を調査する。</li> <li>実習、交流等において、事前指導をさらにきめ細かく行い、地域交流の成果がさらに深いものになるようにする。</li> </ul>
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育環境の変化に伴って発生した課題を適切に認識し、その解決に取り組むような学校文化の形成を図る。</li> <li>コミュニティ・スクール導入に対応し、学校運営協議会評価部会の、有効な運営をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の環境の向上をめざす。</li> <li>防災教育のよりよい形をめざす。</li> <li>学校運営協議会評価部会の効果的な活用をめざす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミ分別の意識の推進と施設・備品・機材等のより有効な活用を追求する。</li> <li>生徒対象の喫食訓練を実施する。また、DIG実施の効果の評価を徹底する。</li> <li>評価部会の評価を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミ分別状況と施設・備品・機材等の活用状況</li> <li>DIGの実施結果に対する校内の評価とDIGの概念の浸透の度合い</li> <li>評価部会の利点・改善点の整理の精緻性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の環境美化をより一層推進し、その整備に努めた。</li> <li>DIG実施に際して、今後に向けての意見を収集することができた。</li> <li>評価部会を通じて学校の抱える問題の共有化をもたらすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミックスペーパー分別回収の取り組みについては、今後は全校的な取り組みとして推進していく。</li> <li>次年度のDIG実施に向けての改善材料を収集する。</li> <li>評価部会を単なる評価作業の場とせず、内部の問題の共有化と外部からの指摘の有効活用場として捉えられる利点を追求する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域清掃や防災訓練のような学校行事に限らず、クラブや部活動単位での関りをより多く持ってもらいたい。</li> <li>まだ手探りの状態であるが、教員の熱意と努力に期待したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゴミの分別回収について、今まで一般ゴミであった紙ゴミを回収できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内清掃、防災訓練の取り組みを学校全体で強化していく。</li> <li>評価部会の在り方については、3年目において検証を行い、改善を検討する。</li> </ul>